

(第1号様式)

プロジェクト登録申請書兼Jブルークレジット[®] 認証申請書

ジャパンプルーエコノミー技術研究組合 御中

(代表申請者) 奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会

住所：北海道奥尻郡奥尻町字奥尻428番地2

氏名： 奥尻町 副町長 田中 敦詞 印

(共同申請者) 株式会社渋谷潜水工業

住所：神奈川県平塚市根間坂822-11 船ビル3F

氏名： 代表取締役社長 渋谷 正信 印

法人番号：2021001001074

Jブルークレジット制度実施要領の規程に基づき、次のとおりプロジェクト登録兼クレジットの認証を申請します。

プロジェクト番号	新規申請
プロジェクト名称	「サステイナブル・アイランド奥尻」アクション 藻類によるBCプロジェクト

プロジェクト区分 (複数選択可)	<p>吸収源の新たな創出 吸収源の回復、維持、劣化抑制 水産養殖を含む</p>
プロジェクト情報	<p>【プロジェクトの背景、内容】 奥尻町は北海道檜山振興局管内の奥尻郡にあり町域は奥尻島全域である。当地区においては、磯焼けの影響から採介藻の漁業の低迷もあり、2009年度から環境・生態系保全活動支援制度、2013年度から水産多面的機能発揮対策事業により藻場保全活動に努めている。 古くから天然ホソメコンブ漁を営み、かつては献上昆布として重宝された記録があるが、あまり利用されていないホソメコンブを活用すべく、2020年11月に奥尻町を中心とした産学官連携体である「奥尻地区海藻生産・活用調査検討協議会(以下協議会)」を組織し、新にホソメコンブの養殖を開始、ブルーカーボנקレジット取得を含む活用計画を策定した。 漁業者数は減少の一途を辿っており、減少を抑制する上でも漁家の安定のためにも持続可能な取り組みとして、ウニ餌料用コンブとしてホソメコンブの養殖を推進している。また、継続的な取り組みになるように、地域住民への周知・理解を高めることや子供達への教育のためにホソメコンブの養殖に一部参加する取り組みを行っている。</p> <p>【開始後の活動内容】 2020/11 協議会発足 2022年12月養殖ホソメコンブの活用計画 (5か年計画、ブルーカーボנקレジット取得を含む)を策定 2023年10月-2024年9月養殖ホソメコンブの生産活動(通年) 2024年6月養殖ホソメコンブの調査 2024年6月地域参加による環境教育実施 2024年10月以降の活動は、申請期間の活動概要に記載。 協議会では養殖ホソメコンブを活用してC02吸収源の回復拡大を以下の通り計画している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たにホソメコンブを養殖することでのC02吸収源を創出する。 ・養殖したホソメコンブを活用して天然資源を保護することによるC02吸収源の減少を抑制、維持する。 ・養殖したホソメコンブから種苗を生産し、これを活用して天然藻場の再生に取り組むことで、C02吸収源の拡大を目指す。 ・地域内外からの参画を促すことで、奥尻町が目指すゼロカーボンシティの実現促進や、担い手不足にある漁業経営に対する関心を高める。 <p>【関係者と活動】 ・本プロジェクトは、ホソメコンブを養殖し全量残置することで養殖事業における生産活動と同時にブルーカーボンを生み出すことを目指している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同申請者の株式会社渋谷潜水工業は、養殖場の座標測定(面積)、二酸化炭素吸収量策定に関する調査、潜水調査及び水中写真撮影、ドローン撮影などを行った。なお、渋谷潜水工業は、20年以上前から藻場調査、再生活動を行っている潜水調査専門の企業である。
クレジット取得理由	<p>ブルーカーボנקレジットを取得することにより、得られる地域内外へのPR効果、クレジット購入により企業などが環境活動に参加し易くなること、クレジット取引により得られる資金を次年度の取り組みに活用出来ること、これらが奥尻町全体の活性化、気候変動緩和の規模拡大や継続的な活動を推進するため。</p>
クレジット取得後の計画や見通し	<p>協議会では、クレジット取得後もC02吸収源の回復、拡大に継続的に取り組むことを計画している。まず、渋谷潜水工業と連携し養殖ホソメコンブによるブルーカーボנקレジットを取得し、次に養殖で生産した種苗や保全した天然ホソメコンブより採取した種苗を使用した天然藻場の再生を目指し取り組んでいく。</p> <p>【クレジットを取得することによる気候変動緩和策】 奥尻町では、環境省の脱炭素先行地域に選定されており、地熱、太陽光、木質バイオマス等による脱炭素に取り組んでいる。さらにブルーカーボンプロジェクトに取り組むことで気候変動緩和を進めて行く。</p>
申請対象期間に実施した活動の概要	<p>・2024年10月～2025年9月 養殖ホソメコンブの生産活動(通年)</p>

申請対象期間に実施した活動の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・2024年10月 天然ホソメコンブを母藻とした遊走子採取及びフリー配偶体分離スタート ・2024年11月 養殖ホソメコンブによるブルーカーボンのクレジット申請 ・2025年3月 第30回全国青年・女性漁業者交流大会で協議会メンバーの「ひやま漁業協同組合青年部奥尻支部」がブルーカーボンを活用した取り組み等で農林水産大臣賞を受賞。 ・2025年3月 「サステナブル・アイランド奥尻」アクション藻類によるBCプロジェクト（令和6年度第2回認証発行分）認証取得 ・2025年5月 マリンバイオテクノロジー学会シンポジウムで奥尻ブルーカーボンについて招待講演 ・2025年6月 奥尻小学生に対する海藻学習の実施 ・2025年7月 養殖ホソメコンブの調査(ブルーカーボンのクレジット取得に向けた調査2年目) ・2025年7月 奥尻パブリティー本部学習会の実施 ・2025年7月 大阪・関西万博会場にて高校生による未来につながる海洋テック発表会においてブルーカーボンについて発表 ・2025年7月 養殖ホソメコンブの調査(本申請に関わる調査)
プロジェクト実施開始日	2022年12月1日～現在

項目1	①対象生態系面積の算定方法	【生態系】海藻 【藻場】コンブ場 【構成種】ホソメコンブ
	②クレジット認証対象期間	2024年10月01日～2025年09月30日
	③対象とするロープの長さ	【ロープ長】 3150(m) 【ロープ長の算定根拠】 添付ファイル1 参照。 【ロープ長の資料】 添付ファイル1.pdf
	④吸収係数	【水揚量】 0(t) 【水揚量の算定根拠】 添付ファイル2 参照。 【水揚量に関する資料】 添付ファイル2.pdf 【残置量】 48.998(t) 【残置量の算定根拠】 添付ファイル2 参照。 【残置量に関する資料】 添付ファイル2.pdf

項目1	④吸収係数	<p>【含水率】 83.2(%)</p> <p>【含水率の算定根拠】 添付ファイル3参照。</p> <p>【含水率に関する資料】 添付ファイル3.pdf</p> <p>【P/B比】 2.6</p> <p>【P/B比の算定根拠】 添付ファイル3参照。</p> <p>【P/B比に関する資料】 添付ファイル3.pdf</p>
-----	-------	--

項目1	④吸収係数	<p>【炭素含有率】 27.2(%) 【炭素含有率の算定根拠】 添付ファイル3参照。 【炭素含有率に関する資料】 添付ファイル3.pdf</p> <p>【残存率1】 0.0472 【残存率1の算定根拠】 文献値（「Krause-Jensen&Duarte, 2016, Substantial role of macroalgae in marine carbon sequestration, Nature Geoscience」）を参照 【残存率1に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【残存率2】 0.0285 【残存率2の算定根拠】 文献値（「港湾空港技術研究所 未発表資料」）を参照 【残存率2に関する資料】 添付ファイルなし</p> <p>【生態系全体への変換係数】 1 【生態系全体への変換係数の算定根拠】 文献値（「浅海域における年間二酸化炭素吸収量の全国推計」）を参照 【生態系全体への変換係数に関する資料】 添付ファイルなし</p>
-----	-------	---

項目1	⑤吸収量算定方法	<p>【計算に利用した式】 式2-2</p> <p>【算定結果（吸収量）】 1.615(t-CO2)</p>
	⑥确实性の評価	<p>【対象生態系面積等の評価】 90%</p> <p>(ロープの長さ：3150(m)×評価：90%)</p> <p>【吸収係数の評価】 95%</p> <p>(吸収係数：0.000512964×評価：95%)</p>
	⑦調査時に使用した船舶の情報	<p>【船舶の種類】 船外機船（11kW / 15PS 程度）</p> <p>【台数】 1隻</p> <p>【稼働時間】 1.00(h)</p> <p>【出力】 128.00(kW)</p> <p>【燃料の種類】 ガソリン</p> <p>【CO2排出量】 0.062(t-CO2)</p>

項目1	⑧ベースラインの設定方法 妥当性とその量	<p>【C02吸収量】 0(t-C02)</p> <p>(入力値0)</p> <p>【設定した根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・養殖実施前をベースラインとした。 ・養殖前の奥尻町沖海域は海藻が繁茂していない。 ・申請者による養殖ロープの設置や種苗糸の供給、昆布養殖活動が無ければ、海藻は繁茂しない。 ・そのため、ベースラインを0t-C02/年とする。 <p>【資料】 添付ファイルなし</p>
	⑨クレジット認証対象の 吸収量	1.319(t-C02)

合計のクレジット認証対象の吸収量	1.3 t
------------------	-------